

リーマン・ショック以降のカナダのプリンス・エドワード・ アイランド州の経済動向

栗原 武美子

- 1 はじめに
 - 2 経済成長率および失業率からみたプリンス・エドワード・アイランド州の経済動向
 - 3 貿易からみたプリンス・エドワード・アイランド州の経済動向
 - 3-1 貿易額および貿易相手国の特徴
 - 3-2 貿易品目の特徴
 - 4 まとめ
- Abstract

1 はじめに

2008年のアメリカ合衆国（以下、アメリカ）発のリーマン・ショックにより世界中に金融危機が広まり、これが実体経済に影響を与え、世界同時不況が進行したことは周知の事実である。但し、個々の国や地域にどのような影響が及んだのかという点に関する具体的研究は、まだ十分に蓄積されていない。そこで本稿では、そうした研究をさらに推し進めるべく、2008年以降のカナダのプリンス・エドワード・アイランド州（以下、PEI州）を取り上げ、その経済動向の特徴の解明を試みている。

なお、本稿は、拙稿「リーマン・ショック以降のカナダ経済の動向」¹⁾、「リーマン・ショック以降のカナダ4州の経済動向」²⁾、「リーマン・ショック以降のカナダ平原2州の経済動向」³⁾、および「リーマン・ショック以降のカナダのニューファンドランド・アンド・ラブラドル州の経済動向」

-
- 1) 栗原武美子 (2013)、「リーマン・ショック以降のカナダ経済の動向」、『東洋大学経済論集』、第39巻第1号、pp. 117-137。
 - 2) 栗原武美子 (2014a)、「リーマン・ショック以降のカナダ4州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第39巻第2号、pp. 117-142。
 - 3) 栗原武美子 (2014b)、「リーマン・ショック以降のカナダ平原2州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第40巻第1号、pp. 169-193。

向]⁴⁾で検証されたカナダ一国とカナダの国内総生産（GDP）の上位6州（オンタリオ州、ケベック州、アルバータ州、ブリティッシュ・コロンビア州（以下、BC州）、サスカチュワン州、マニトバ州）ならびにニューファンドランド・アンド・ラブラドル州（以下、ニューファンドランド州）の経済動向を踏まえて、1州限定ではあるが州レベルでの経済動向の検証を行なうものである。と同時に、本稿はまた、拙著『現代カナダ経済研究』⁵⁾の第2部のうち1州に限定したその後の展開という位置付けを持つものである。なお、拙稿（2014a、2014b、2015）と本稿で検討されていない沿海州⁶⁾の2州（ノヴァ・スコシア州とニュー・ブランズウィック州）については、紙面の都合により別稿で論ずることとしたい。

2 経済成長率および失業率からみたプリンス・エドワード・アイランド州の経済動向

カナダは10の州（Provinces）と3つの準州（Territories）から構成されている。州政府は州内における政治・経済・社会・文化面での権限を有している一方、準州は連邦政府に属しており、州政府のような権限を付与されていない。本稿では、沿海州のPEI州に焦点を当てて、リーマン・ショック以降の同州の経済動向の特徴を明らかにすることを目的としている。

2013年のカナダの名目GDP総額（支出ベース）は1兆8,938億カナダドル（以下、ドル）であった。同年、カナダで最大のオンタリオ州の名目GDPは6,957億ドルで、第2位以下の名目GDPはケベック州の3,628億ドル、アルバータ州の3,382億ドル、BC州の2,297億ドルであった。4州の名目GDPの合計はカナダの名目GDP総額の85.9%に匹敵する⁷⁾。

上位4州に比較すると、平原2州のサスカチュワン州の名目GDPは832億ドル（第5位）、マニトバ州の名目GDPは613億ドル（第6位）で、両州の名目GDPを合わせてもカナダの名目GDPの7.6%と小さい。大西洋カナダの経済規模は平原2州と比較するとさらに小さく、ノヴァ・スコシア州の名目GDPは391億ドルであり、同様に、ニューファンドランド州は358億ドル、ニュー・ブ

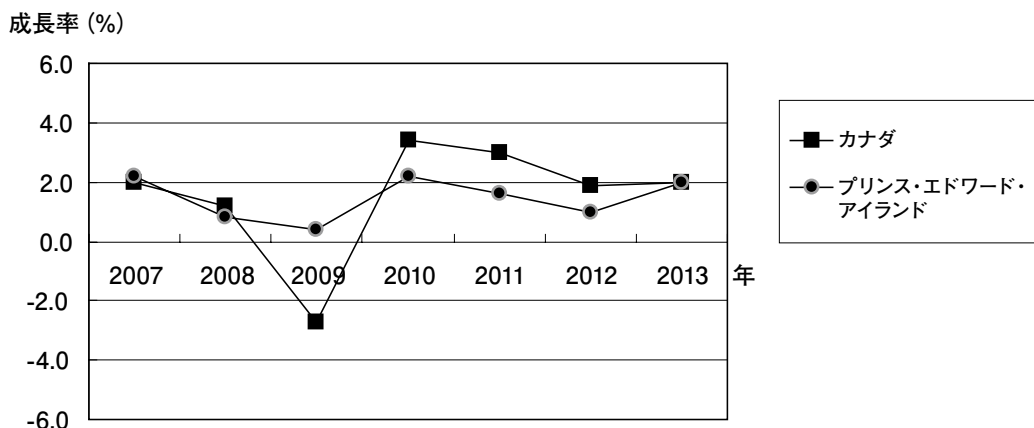
4) 栗原武美子（2015）、「リーマン・ショック以降のカナダのニューファンドランド・アンド・ラブラドル州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第41巻第1号、pp. 137-157。

5) 栗原武美子（2011）、『現代カナダ経済研究：州経済の多様性と自動車産業』、東京大学出版会。

6) 沿海州（the Maritimes）は、ノヴァ・スコシア州、ニュー・ブランズウィック州、プリンス・エドワード・アイランド州の3州を指す。この沿海州とニューファンドランド州を合わせた4州は大西洋カナダ（Atlantic Canada）と呼ばれている。

7) 出典、Statistics Canada（カナダ統計局）、CANSIM Table 384-0038（2014年12月21日および2015年10月30日アクセスで、統計値は同一である）。なお、カナダの名目GDP総額と、10州および3準州の名目GDPの合計値は一致していない。また、本文のGDPは、出典の表に掲載されているGDPの千万ドルの位で四捨五入した値が記載されている。

図1 2007年から2013年までのプリンス・エドワード・アイランド州の実質国内総生産（GDP）成長率



出典) Statistics Canada, CANSIM Table 384-0038 (2015年10月30日アクセス)

ランズウィック州は319億ドルである。PEI州は10州の中で経済規模が最も小さく、名目GDPは58億ドルで、これは最大のオンタリオ州の120分の1でしかない⁸⁾。しかし、経済規模は小さいものの、PEI州は日本人には『赤毛のアン』によって知名度は抜群である。

図1は2007年から2013年までのカナダおよびPEI州の実質GDP成長率（前年比、2007年連鎖ドル）を示したものである。カナダの成長率は2007年に2.0%であったが、2008年には1.2%へ減少し、リーマン・ショック直後の2009年にはマイナス2.7%を記録した。しかし、2010年以降には経済はプラス成長に転じ、2010年には3.4%、2011年には3.0%、2012年には1.9%、2013年には2.0%の成長率を示した⁹⁾。カナダ経済の動向は、先進7ヶ国のなかでも優れたパフォーマンスを示すことが特色となっている¹⁰⁾。

一方、PEI州の実質GDP成長率は2007年から2013年にかけてすべてプラス成長を示した。より詳細に検討すると、2007年の経済成長率は2.2%であったが、リーマン・ショックの起こった2008年には0.8%へ減少し、さらに2009年には0.4%となった。2009年には10州の中で8州の経済成長率が

8) 同上。

9) 本稿の実質GDP成長率はカナダ統計局のデータを用いている。前掲書・栗原（2013年）ではカナダとアメリカを2013年と2014年の推計値を含めて対比するため、IMFのデータを用いた。このため、本稿と栗原（2013）でのカナダの実質GDPの値は一致していない。また、本稿と栗原（2014a, 2014b）では実質GDP成長率をカナダ統計局のCANSIM Table 384-0038に依拠しているが、アクセス日が異なるため2011年と2012年の値が修正されている。

10) 前掲書、栗原（2013）、pp. 118-120。

表1 2007年から2014年までのプリンス・エドワード・アイランド州の産業別国内総生産（GDP）の比率
（単位：％）

プリンス・エドワード・アイランド								
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
財生産業 [T002]	23.8	23.1	21.8	21.7	21.4	21.3	21.6	23.1
農林水産業 [11]	6.6	6.1	4.2	5.2	5.9	6.3	6.2	6.7
鉱業・オイル・ガス採掘業 [21]	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
電気・ガス・水道業 [22]	0.8	1.2	1.3	1.4	1.3	1.2	1.1	1.1
建設業 [23]	6.6	6.4	6.5	6.3	6.2	5.7	5.8	5.5
製造業 [31-33]	9.8	9.3	9.7	8.7	7.9	8.0	8.4	9.7
サービス生産業 [T003]	76.2	76.9	78.2	78.3	78.6	78.7	78.4	76.9
卸売業 [41]	2.1	2.2	2.1	1.9	2.0	2.0	2.0	2.1
小売業 [44-45]	6.7	6.4	7.1	7.4	7.2	7.1	7.0	6.8
運輸・倉庫業 [48-49]	2.7	2.6	3.0	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2
情報・文化産業 [51]	3.2	3.2	3.1	2.9	2.9	3.0	3.0	3.0
金融・保険業 [52]	5.6	5.7	5.3	5.5	5.6	5.8	6.0	6.1
不動産・レンタル・リース業 [53]	12.9	12.9	13.4	13.3	13.2	13.3	13.2	13.4
専門・科学・技術的サービス業 [54]	2.8	2.9	2.8	2.8	2.8	2.9	2.8	2.8
会社管理 [55]	0.6	0.8	0.7	0.8	0.7	0.5	0.5	0.5
管理サポート・廃棄物処理・浄化サービス業 [56]	2.8	2.9	2.8	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0
教育 [61]	7.0	7.3	7.5	7.7	7.7	7.8	7.6	7.0
ヘルスケア・社会福祉 [62]	9.5	9.4	9.5	9.6	9.9	9.9	9.8	9.7
芸術・娯楽・レクリエーション [71]	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	1.1	1.1
宿泊・飲食業 [72]	3.2	3.1	3.0	3.0	2.9	3.0	2.9	3.0
その他のサービス業 [81]	2.5	2.5	2.6	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
政府関係 [91]	13.4	13.8	14.1	13.8	14.0	13.8	13.9	12.7
全産業 [T001]	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注) カッコ内の数字は北アメリカ産業分類システム（NAICS）の分類番号を指す。

出典) Statistics Canada, CANSIM Table 379-0028 (2015年10月25日アクセス)。

マイナスを記録した半面、PEI州とノヴァ・スコシア州が0.4%¹¹⁾ とプラス成長だったことは特筆に値する。

その後、2010年の経済成長率は2.2%、2011年は1.6%、2012年は1.0%と、3年間はカナダ全体の成長率を下回った。しかし、2013年にはカナダ全体と同じ2.0%となった。2007年から2013年のPEI州の経済は一貫して緩やかに成長を続けていると特徴づけられる。

表1は2007年から2014年までのPEI州の産業別GDPの比率¹²⁾を示したものである。同期間中、財生産業のGDP全体に占める比率は2007年、2008年、2014年に23%台、2009年から2013年にかけては21%台であった。一方、サービス生産業の比率は2007年、2008年、2014年に76%を占め、

11) 出典、Statistics Canada, CANSIM Table 384-0038 (2015年10月30日アクセス)。

12) 出典、Statistics Canada, CANSIM Table 379-0028 (2015年10月25日アクセス)。

2009年から2013年にかけては78%台であった。

一方、2014年のカナダ全体の財生産業は30.3%、サービス生産業は69.7%¹³⁾、財生産業とサービス生産業の比率は約3対7と言えよう。PEI州の経済は、カナダ全体と比較して財生産業の比重が7%小さくなっていることが特色として挙げる事ができる。

PEI州の産業部門を個別にみると、財生産業の中では製造業（7.9%～9.8%）、農林水産業（4.2%～6.7%）や建設業（5.5%～6.6%）が主たるものである。また、サービス生産業の中では政府関係（12.7%～14.1%）、不動産・レンタル・リース業（12.9%～13.4%）、およびヘルスケア・社会福祉（9.4%～9.9%）の占める比率が高い。

農業はPEI州にとって主要な産業の1つである。農産物の中で特にジャガイモが有名で、PEI州はカナダで最大のジャガイモ生産州で、全国の約25%を生産している¹⁴⁾。ジャガイモは同州の最大の換金作物で、ジャガイモの価格が世界市場で変動しているため、この5年間の農家の現金収入は2億300万ドルから2億5,700万ドルの範囲であった¹⁵⁾。ジャガイモの約60%はフレンチ・フライやポテト・チップスへ加工され、30%はそのまま新鮮な農産物として市場へ出荷され、残りの10%が種イモとして利用されている¹⁶⁾。また、ジャガイモとの輪作で穀物や脂肪種子が栽培され、2013年には大豆栽培面積の約14%の大豆が日本へ豆腐や味噌の原料として輸出された¹⁷⁾。

水産業も重要な産業の1つである。2013年の海水産物総陸揚げ量は3万1,530トンで、そのうち1万3,000トン弱はロブスターで、同州の海水産物陸揚げ金額の80%を占めている。ムール貝や牡蠣の養殖も盛んで、養殖ムール貝の陸揚げ量はカナダ全体の78.7%を占める¹⁸⁾。

製造業については、農産物や魚介類を加工する食品製造業が主要なものである。2012年のPEI州の製造業出荷額合計は13億252万ドルで、食品製造業は7億3,155万ドルと全出荷額の56.2%を占めた。そのうち、1億4,563万ドルは魚介類の出荷額である¹⁹⁾。PEI州のジャガイモを用いて、ニュー・

13) 出典、Statistics Canada, CANSIM Table 379-0031 (2015年10月31日アクセス)から算出。

14) Prince Edward Island Potato Board, "Potato Industry," <http://www.peipotato.org/potato-industry> (2015年11月18日アクセス)、およびStatistics Canada, "Service Bulletin, Canadian Potato Production, 2012" <http://www.statcan.gc.ca/pub/22-008-x/22-008-x2012003-eng.pdf>, p. 2 (2015年11月18日アクセス)。

15) Government of Prince Edward Island, Department of Agriculture and Fisheries, "Agriculture on Price Edward Island," <http://www.gov.pe.ca/agriculture/AgonPEI> (2015年11月18日アクセス)。

16) 前掲、PEI Potato Board。

17) 前掲、Government of Prince Edward Island, Department of Agriculture and Fisheries。

18) ARC国別情勢研究会 (2015)、『ARCレポート：経済・貿易・産業報告書、カナダ、2015/16』、ARC国別情勢研究会, p. 93。

19) Government of Prince Edward Island, Department of Finance (2015), *Prince Edward Island 41st Annual Statistical Review 2014*, p. 84。なお、2013年の製造業全体の出荷額は14億5,571万ドル、2014年の同出荷額は16億756万

アナン (New Annan) にあるキャベンディッシュ・ファームズ社 (Cavendish Farms Inc.) とボーデン・カールトン (Borden-Carleton) にあるマッケイン・フーズ社 (McCain Foods Ltd.) ではフレンチ・フライを生産している²⁰⁾。両社はカナダのフレンチ・フライ市場で最大のライバルである²¹⁾。

キャベンディッシュ・ファームズ社は1980年アーヴィン・グループ社 (Irving Group of Companies) がPEI州の冷凍野菜やフレンチ・フライの加工工場を買収し、それを現在のキャベンディッシュ・ファームズ社に改名したことに始まる。2001年にはアメリカのノース・ダコタ州の工場を買収し、北米で第4位のジャガイモ加工業者となった²²⁾。現在、PEI州で600人を雇用し、92戸の農家からジャガイモを購入している²³⁾。

他方、冷凍フレンチ・フライやスナック菓子で世界最大の製造メーカーであるマッケイン・フーズ社は、1957年に設立され、本社は隣のニュー・ブランズウィック州フローレンスヴィルにある。わずか30名で売上高が15万ドルでスタートしたマッケイン・フーズ社は、現在では世界6大陸で41の製造拠点をもち、17,000人の従業員を抱え、売上高70億ドルの会社へと成長している。160以上の国や地域で製品が提供され、世界で消費される3分の1のフレンチ・フライがマッケイン・フーズ社製である²⁴⁾。

このマッケイン・フーズ社はPEI州のボーデン・カールトンにフレンチ・フライの製造工場を持っていたが、過去10年間で生産量が3分の2減少した結果同工場は北米で規模も稼働率も最少になり、2014年10月31日に工場が閉鎖されることとなった²⁵⁾。この工場閉鎖によって121人の雇用が失われることになり、同社は新たな雇用を創出するために200万ドル出資する意向を示している。また、PEI州のジャガイモ局 (Potato Board) によると、マッケイン・フーズ社は2014年にPEIの23戸の契約農家から700万ドル以上のジャガイモを購入していることが報告されており、工場閉鎖は極めて残念なことと捉えられている²⁶⁾。一方、PEI州の首相は、同工場はPEI州のジャガイモの4%

ドルであったが、食品製造業の値は開示されていない。

20) Prince Edward Island Potato Board, "PEI Potato Industry, Processing," <http://www.peipotato.org/industry/processing> (2015年11月22日アクセス)。

21) PotatoPro, "Cavendish Farms Says It Faces the Same Challenges as McCain," <http://www.potatopro.com/news/2014/cavendish-farms-says-it-faces-same-challenges-mccain-foods> (2015年11月22日アクセス)。

22) Cavendish Farms, "History," <http://www.cavendishfarms.com/foodservice-aboutus-history.aspx> (2015年11月22日アクセス)。

23) 前掲、PotatoPro。

24) McCain, "About us," <http://www.mccain.com/about-us> (2015年11月18日アクセス)。

25) "McCain to Close PEI French Fry Plant, Affecting 121 Jobs," <http://www.theglobeandmail.com/report-on-business/mccain-to-close-pei-french-fry-plant-affecting-121-jobs/article19949187/> (2015年11月22日アクセス)。

26) "McCain Foods Closing Borden-Carleton French Fry Plant," <http://www.cbc.ca/news/canada/prince-edward-island/>

を購入しているにすぎないとし、工場閉鎖はPEI州の経済に深刻な影響を及ぼすことはないが、新たな製造工場があればよいとの意向を示している²⁷⁾。

観光産業もPEI州にとって重要な産業の1つである。観光産業は北アメリカ産業分類の宿泊・飲食業や情報・文化産業に関連しているのだが、表1からは2013年から2014年にかけてこの部門の目立った増加は見当たらない。しかし、2014年は1864年の歴史的なシャーロットタウン会議²⁸⁾から150周年記念の祝賀行事とPEIコンベンション・センターの完成によって州都シャーロットタウンへの旅行者の増加が見込まれている。コンファレンス・ボード・オヴ・カナダ研究所によると、2016年までに訪問客による宿泊数（overnight stays）は53,000泊増えて年間752,000泊になると予想された²⁹⁾。実際には2014年の宿泊数は842,089泊へと増加し、その内訳はカナダ国内の旅行者が87.7%、アメリカからの旅行者が7.7%、他の外国からの旅行者が4.6%を占めた³⁰⁾。

次に失業率から経済動向を検討してみよう。図2は2007年から2014年までのカナダおよびPEI州の失業率（季節調整済み）を表わしたものである。カナダの失業率は2007年と2008年は6.0%と6.2%と6%台であったが、2009年と2010年は8.4%と8.0%と8%台へ上昇した。しかし、2011年から2013年にかけて7.5%、7.3%、7.1%へと徐々に低下している³¹⁾。

PEI州の失業率は、2007年の10.2%、2008年の10.8%と10%台であった。しかし、2009年になって11.9%へ増加し、その後も、2010年から2013年まで11%台の高止まりを示した。2014年になり10.5%へ減少した。2007年から2014年までの期間中PEI州の失業率は、カナダの10州の中ではニューファンドランド州に次ぐ高い数値を示した³²⁾。2007年から2014年のPEI州の失業率は、カナダ全体の失業率よりもほぼ3.5%から4.0%高いものとなっており、雇用創出が同州の課題であるこ

mccain-foods-closing-borden-carleton-french-fry-plant-1.2730051 (2015年11月22日アクセス)。

27) 同上。

28) シャーロットタウン会議はカナダ自治領が誕生する基礎となった会議であったため、シャーロットタウンは「カナダ発祥の地」として知られている。

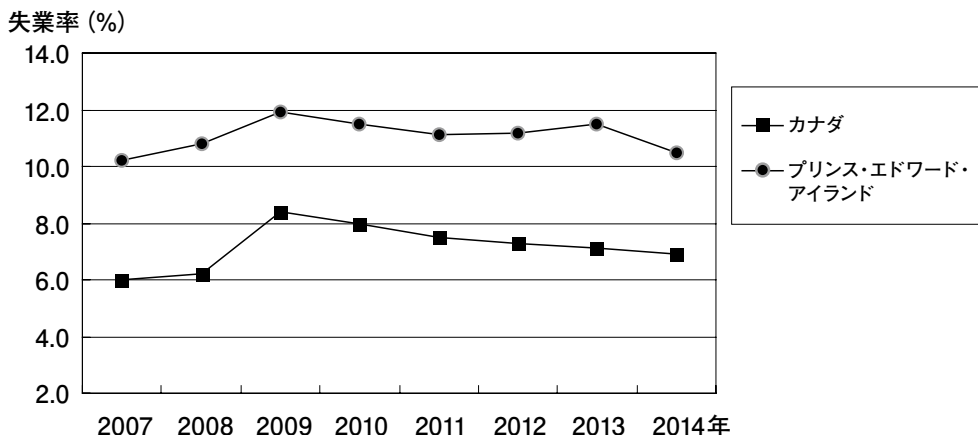
29) Service Canada (2014), *Sectoral Outlook 2013-2015, Prince Edward Island*, p. 17, http://www.esdc.gc.ca/eng/jobs/lmi/publications/sectoral-outlooks/2013-15/pei_winter2014.pdf (2015年9月14日アクセス)。

30) Government of Prince Edward Island, Department of Tourism and Culture (2015), "Tourism Indicators 2014", p.4, http://www.gov.pe.ca/photos/original/tourism_yearend.pdf (2015年9月13日アクセス)。

31) 本稿の失業率は、カナダ全体と10州が掲載されているカナダ統計局、CANSIM Table 282-0087 (2015年10月30日アクセス)に依拠している。また、栗原 (2013) で示されている失業率はカナダ全体のみで、カナダ統計局、CANSIM Table 282-0002 (2013年9月7日アクセス)に依拠している。2015年10月30日に後者のCANSIM Table 282-0002に再度アクセスしたが、カナダ全体の失業率の値は、両者の表では一致していない。さらに、CANSIM Table 282-0087のカナダの失業率は、2014年8月28日にアクセスした値が2007年の6.1%、2009年の8.3%、2011年の7.4%であり、2015年10月30日にアクセスした値と異なっている。

32) 同上、Statistics Canada, CANSIM Table 282-0087。

図2 2007年から2014年までのプリンス・エドワード・アイランド州の失業率（季節調整済み）



出典) Statistics Canada, CANSIM Table 282-0087 (2015年10月30日アクセス)

とがうかがえる。

カナダ政府の資料によると、PEI州の財生産業の雇用者数は1970年代には33%であったが、2012年には24%へ減少し、カナダの他州と同様にサービス生産業の雇用の増加がみられた。財生産業への依存度が減少したとはいえ、PEI州の経済は伝統的に農業や漁業が中心で、それに加え観光関連産業が主要な産業である。過去20年間、PEI州の宿泊・飲食業や情報・文化産業といった観光関連産業の雇用は、夏場にピークを迎え冬場に減少する季節変動が大きく、この現象が依然として続いている。また、製造業の雇用は2009年の不況以来停滞している。一方で、航空宇宙、バイオサイエンス、再生可能エネルギー、情報技術産業の知識集約型4部門が雇用の機会を創出するのに貢献している³³⁾。

3 貿易からみたプリンス・エドワード・アイランド州の経済動向

3-1 貿易額および貿易相手国の特徴

カナダは貿易依存度が高く、しかもアメリカへの貿易依存度が特に高いことが大きな特徴となっていることは、栗原(2011、2013)の中で検証されている。また、州レベルでも7州(オンタリオ州、ケベック州、アルバータ州、BC州、サスカチュワン州、マニトバ州およびニューファンドランド州)に限定しているが、貿易、特にアメリカとの貿易が州経済にとって重要であることは栗原(2014a、2014b、2015)の中で検証された通りである。

33) 前掲書、Service Canada, pp. 13-14.

表2 2007年から2014年までのプリンス・エドワード・アイランド州の上位5ヶ国の輸出相手国（商品貿易、通関ベース）
（単位：千カナダドル、%）

プリンス・エドワード・アイランド																
	2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014	
	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%
アメリカ	560,710	75.9	636,844	81.1	584,774	77.0	512,908	74.2	512,419	70.1	583,272	69.4	634,693	71.3	679,654	64.1
フランス	9,980	1.4	7,311	0.9	7,644	1.0	8,939	1.3	7,620	1.0	12,462	1.5	19,831	2.2	42,807	4.0
韓国	1,870	0.3	2,767	0.4	1,388	0.2	4,869	0.7	5,793	0.8	10,773	1.3	3,417	0.4	37,894	3.6
オーストラリア	1,544	0.2	2,372	0.3	6,550	0.9	5,402	0.8	7,306	1.0	11,418	1.4	9,096	1.0	28,574	2.7
日本	15,630	2.1	12,059	1.5	21,291	2.8	17,150	2.5	11,839	1.6	12,023	1.4	17,379	2.0	24,027	2.3
イギリス*	14,208	1.9	10,542	1.3	11,864	1.6	20,124	2.9	15,545	2.1	12,518	1.5	10,453	1.2	19,182	1.8
その他	134,476	18.2	113,763	14.5	125,645	16.5	122,006	17.6	170,855	23.4	197,757	23.5	195,026	21.9	228,570	21.5
輸出額合計	738,418	100.0	785,658	100.0	759,156	100.0	691,398	100.0	731,377	100.0	840,223	100.0	889,895	100.0	1,060,708	100.0

注) 2014年のイギリスの順位は第7位である。

出典) Industry Canada, Trade Data Online (2015年10月26日アクセス)。

PEI州の2013年の貿易依存度は、輸出が15.4%、輸入が0.7%³⁴⁾で、これまで検証した他州に比較して貿易依存度は高いとは言えない。しかし、PEI州の2013年の実質GDP成長率2.0%に大きく寄与したのは4.5%の輸出額の伸びであった³⁵⁾ことから、輸出の重要性がうかがえる。第3節では、PEI州の貿易額、貿易相手国ならびに貿易品目の特徴を捉えることで、リーマン・ショック以後の貿易、特にアメリカとの貿易に焦点を当てて、同州の経済に与える影響を明らかにし、PEI州にとっての貿易の意義を明らかにしたい。

表2は2014年におけるPEI州の輸出相手国（商品貿易、通関ベース）のうち、上位5ヶ国およびイギリスに対する2007年から2014年にかけての輸出額を示したものである³⁶⁾。同州の2007年の輸出額（再輸出額を除く）は7.4億ドル³⁷⁾であった。2008年には7.9億ドルへ増加した。リーマン・ショック後の2009年には7.6億ドルへ、2010年には6.9億ドルへ減少し、リーマン・ショックの影響がみられた。その後、2011年から増加に転じて、2011年の7.3億ドル、2012年の8.4億ドル、2013年の8.9億ドル、2014年には10.6億ドルまで増加した。カナダ全体の輸出総額がリーマン・ショック以前の水準に達したのが2012年であるが³⁸⁾、PEI州も2012年にリーマン・ショック以前の輸出水準にまで回復した。さらに、その後もPEI州の輸出額は増加し、2014年には初めて10億ドルに達した³⁹⁾。

34) 2013年のPEI州の名目GDPと同州の輸出額および輸入額から算出。

35) 前掲書、Government of Prince Edward Island, Department of Finance (2015), *Prince Edward Island 41st Annual Statistical Review 2014*, p. 7。

36) 表2の上位5ヶ国は、2014年時点の上位5ヶ国を掲載している。なお、イギリスは2014年にドイツに次いで第7位であった。

37) 本文の貿易額と貿易収支は、表に掲載している金額の百万ドルの位で四捨五入した値が記載されている。

38) 前掲書、栗原 (2013)、p. 124。

39) 前掲書、Government of Prince Edward Island, *Prince Edward Island 41st Annual Statistical Review 2014*, p. 7。

PEI州の最大の輸出相手国はアメリカで、2007年の5.6億ドルは輸出額合計の75.9%を占めていた。2008年のアメリカへの輸出額は6.4億ドルへと増加し、比率もこの期間最高の81.1%に達した。しかし、2009年から2011年にかけてアメリカへの輸出は金額も比率も減少した。2012年以降はアメリカへの輸出額は漸増し、2014年には6.8億ドルとなった。但し、比率は減少し、2014年には64.1%になった。

第2位以下の輸出相手国は年によって異なっている。輸出相手国第2位は2007年から2009年までは日本で、2010年と2011年はイギリスであった。また、逆に、輸出相手国第3位は2007年から2009年まではイギリスで、2010年と2011年は日本であった。日本やイギリスへの輸出額はアメリカと比較すると1桁少ない。2012年以降は、ケニア、インドネシア、フランスへの輸出が増大した。2014年、第2位のフランスへ輸出額は4,281万ドル⁴⁰⁾ (輸出額合計の4.0%)、第3位の韓国へは3,789万ドル (3.6%)、第4位のオーストラリアへは2,857万ドル (2.7%)、第5位の日本へは2,403万ドル (2.3%) であった。輸出額は小さいが、PEI州の輸出相手国は西ヨーロッパや東アジア諸国、およびオーストラリアと多様化している。

表3は2014年におけるPEI州の輸入相手国のうち上位5ヶ国およびイギリス、スペインとデンマーク⁴¹⁾ からの2007年から2014年にかけての輸入額⁴²⁾ および同州の貿易収支を示している。2007年のPEI州の輸入額は5,454万ドルで、2008年には1億1,880万ドルへ倍増した。しかし、リーマン・ショック直後の2009年には4,128万ドルへ激減し、2010年にはほぼ横這いの4,111万ドルであった。輸入額においても、リーマン・ショックの影響がうかがえた。2011年から増減を繰り返し、2014年には5,276万ドルになった。年により異なるが、PEI州の輸入額は輸出額よりほぼ1桁小さく、貿易収支は、2007年から2014年の間毎年黒字で、2009年には7.2億ドルであったが、2010年には6.5億ドルへと減少した。2011年以降貿易黒字は増加し、2014年には10.1億ドルとなった。

2007年と2008年のPEI州の最大の輸入相手国はデンマークで、2007年の輸入額は2,429万ドル (輸入額合計の44.5%) から2008年の8,251万ドル (69.5%) へと増加した。しかし、2009年には1,230万ドル (29.8%) へと急減した。デンマークからの輸入額の大部分が電気機器であった⁴³⁾。デンマー

40) 前掲書の栗原 (2014a, 2014b, 2015) の中および本稿では貿易額を億ドルの単位で示したが、ニューファンドランド州同様にPEI州の第2位以下の貿易相手国との貿易額が小さいため、ここでは表に掲載している金額の千ドルの位で四捨五入した値を記載する。

41) 表3の上位5ヶ国は、2014年時点の上位5ヶ国を掲載している。なお、2014年の順位はイギリスが第9位、スペインが第20位、デンマークは第24位である。

42) PEI州の輸入額全体が小さいため、ここでは表に掲載している金額の千ドルの位で四捨五入した値を記載する。

43) 出典、Industry Canada, Trade Data Online (2015年10月30日アクセス)。

表3 2007年から2014年までのプリンス・エドワード・アイランド州の上位5ヶ国の輸入相手国（商品貿易、通関ベース）
（単位：千カナダドル、%）

プリンス・エドワード・アイランド																
	2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014	
	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%	輸入額	%
アメリカ	7,369	13.5	11,087	9.3	20,511	49.7	4,452	10.8	47,294	76.0	22,548	58.8	6,827	17.1	30,823	58.4
ロシア	8,803	16.1	3,819	3.2	1,663	4.0	22,473	54.7	9,150	14.7	9,136	23.8	8,834	22.2	11,691	22.2
ドイツ	1,033	1.9	236	0.2	118	0.3	119	0.3	166	0.3	114	0.3	170	0.4	1,231	2.3
リトアニア	1,152	2.1	—	—	—	—	10,375	25.2	—	—	—	—	1,418	3.6	1,227	2.3
インド	1	0.0	—	—	6	0.0	1	0.0	—	—	—	—	8	0.0	928	1.8
イギリス*	6,054	11.1	17,457	14.7	418	1.0	725	1.8	652	1.1	395	1.0	612	1.5	652	1.2
スペイン*	66	0.1	178	0.2	46	0.1	84	0.2	87	0.1	94	0.3	17,097	42.9	90	0.2
デンマーク*	24,293	44.5	82,510	69.5	12,300	29.8	5	0.0	8	0.0	16	0.0	16	0.0	44	0.1
その他	5,766	10.6	3,508	3.0	6,213	15.1	2,874	7.0	4,840	7.8	6,057	15.8	4,893	12.3	6,076	11.5
輸入額合計	54,537	100.0	118,795	100.0	41,275	100.0	41,108	100.0	62,197	100.0	38,360	100.0	39,875	100.0	52,762	100.0
輸出額合計	738,418		785,658		759,156		691,398		731,377		840,223		889,895		1,060,708	
貿易収支	683,881		666,863		717,881		650,290		669,180		801,863		850,020		1,007,946	

注) 2014年の順位はイギリスが第9位、スペインが第20位、デンマークが第24位である。

出典) Industry Canada, Trade Data Online (2015年10月26日アクセス)。

クが第2位の輸入相手国となった2009年の第1位の輸入相手国はアメリカで、輸入額は2,051万ドル（49.7%）であった。2010年には輸入相手国第1位はロシア（54.7%）で、第2位はリトアニア（25.2%）となった。2011年と2012年の輸入相手国第1位は再びアメリカとなり、第2位はロシアであった。2013年には第1位がスペイン（42.9%）⁴⁴⁾、第2位がロシア（22.2%）、第3位がアメリカ（17.1%）へと変わった。ロシアとリトアニアからの輸入品は大部分が肥料であり、スペインからは一般機械が輸入された⁴⁵⁾。

2014年には輸出額が10億ドルの大台に初めて乗ったが、この年の輸入額は5,276万ドルであった。輸入相手国の第1位はアメリカ（3,082万ドル、58.4%）であり、第2位はロシア（1,169万ドル、22.2%）であった。

PEI州の輸入相手国の特徴は、これまで検証されたGDP上位の6州が最大の輸入相手国はアメリカ⁴⁶⁾であったことや、ニューファンドランド州の場合はイラクが最大の輸入相手国⁴⁷⁾というパターンとは大きく異なっている。まず、PEI州の輸出額が相対的に小さく、さらに2008年と2014年を除くと輸入額は輸出額よりも1桁小さい金額である。また、年度によって上位の輸入相手国が大きく変動しており、これらの国々は西ヨーロッパ諸国、アメリカ、ロシアなどであり、他州でみられた中国や日本は輸入相手国として上位に入っていないことが特徴である。

表4は2007年から2014年までのPEI州とアメリカとの貿易と貿易収支をまとめたものである。

44) 同上。

45) 同上。

46) 前掲書、栗原（2014a、2014b）を参照のこと。

47) 前掲書、栗原（2015）を参照のこと。

表4 2007年から2014年までのプリンス・エドワード・アイランド州とアメリカとの貿易と貿易収支（商品貿易、通関ベース）
（単位：千カナダドル）

		2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
プリンス・エドワード・アイランド	輸出額	560,710	636,844	584,774	512,908	512,419	583,272	634,693	679,654
	輸入額	7,369	11,087	20,511	4,452	47,294	22,548	6,827	30,823
	貿易収支	553,341	625,757	564,263	508,456	465,125	560,724	627,866	648,831

出典) Industry Canada, Trade Data Online (2015年10月26日アクセス)。

2008年には輸出額は6.4億ドルであったが、2009年から2011年にかけて毎年輸出額は減少し、2011年には5.1億ドルとなった。2012年から増加に転じ、2014年は6.8億ドルに達した。一方、輸入額は2007年から2009年まで増加し、2009年には2,051万ドルになった。しかし、2010年には445万ドルへと激減した。2011年には10倍以上の4,729万ドルへ増加したが、2012年には約半減し、2013年にはさらに683万ドルへと激減した。2014年には3,082万ドルへと急増した。アメリカからの輸入額については、急増や急減が特徴的である。

PEI州とアメリカとの2007年から2014年にかけての貿易収支は一貫してPEI州の黒字である。2008年の貿易収支は6億2,576万ドルの黒字で、2009年から2011年にかけて黒字幅は減少し、2011年には4億6,513万ドルになった。2012年から黒字幅は増加に転じ、2014年には6億4,883万ドルに達した。2007年から2014年の期間中、2008年のアメリカとの貿易収支の黒字幅は同州全体の貿易黒字の93.8%に相当し、その後、比率は減少したが、それでもアメリカとの貿易による黒字は各年の州全体の貿易黒字の69.5%から78.6%に相当し、2014年には州全体の貿易黒字の64.4%に相当した。これらの数値はアメリカとの貿易が州全体の貿易黒字に貢献しており、アメリカとの貿易がPEI州経済にとって重要であること示唆している。

3-2 貿易品目の特徴

次に、貿易品目から貿易の特徴を捉えてみよう。表5は2007年から2014年までのPEI州の品目別輸出額を示したものである。但し、2014年時点における上位5品目に限定している⁴⁸⁾。PEI州の場合、2007年から2014年までの間、野菜・果物の加工食品の輸出額が最も大きく、2009年には2.4億ドル（輸出額合計の31.7%）であったが、2011年には1.8億ドル（24.5%）へ減少した。その後、増加して2014年には2.2億ドル（20.3%）になった。第2位の輸出品目は魚・甲殻類で、2008年には1.6億ドル（19.8%）であったが、その後輸出額は増減し、2014年には2.1億ドル（19.9%）へと増加した。2007年から2014年までの期間中、野菜・果物の加工品と魚・甲殻類の2品目は輸出額合計の40.2%から50.6%を占めている。

48) 同様に、表6の上位5品目は、2014年時点の上位5品目を掲載している。

表5 2007年から2014年までのプリンス・エドワード・アイランド州の上位5品目別輸出額（商品貿易、通関ベース）
（単位：千カナダドル、%）

プリンス・エドワード・アイランド																
	2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014	
	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%	輸出額	%
野菜・果物の加工食品 (20)	214,476	29.1	222,157	28.3	240,904	31.7	197,555	28.6	179,171	24.5	200,334	23.8	213,512	24.0	215,073	20.3
魚・甲殻類 (03)	153,347	20.8	155,325	19.8	125,329	16.5	152,349	22.0	141,724	19.4	149,958	17.9	162,300	18.2	211,190	19.9
一般機械 (84)	52,297	7.1	65,183	8.3	71,533	9.4	51,872	7.5	81,471	11.1	138,718	16.5	149,023	16.8	165,211	15.6
野菜 (07)	62,823	8.5	64,254	8.2	56,261	7.4	53,286	7.7	88,383	12.1	62,316	7.4	66,145	7.4	65,258	6.2
加工肉・加工魚 (16)	36,754	5.0	44,479	5.7	24,861	3.3	33,337	4.8	29,075	4.0	45,617	5.4	39,675	4.5	46,730	4.4
その他	218,721	29.5	234,260	29.7	240,268	31.7	202,999	29.4	211,553	28.9	243,280	29.0	259,240	29.1	357,246	33.6
輸出額合計	738,418	100.0	785,658	100.0	759,156	100.0	691,398	100.0	731,377	100.0	840,223	100.0	889,895	100.0	1,060,708	100.0

注) カッコ内はHarmonized Commodity Description and Coding System (HS)コードを表わす。

出典) Industry Canada, Trade Data Online (2015年10月26日アクセス)。

野菜・果物の加工食品の代表的なものは冷凍のフレンチ・フライで、2007年から2014年の期間中に輸出額合計の19.5%から30.6%を占めた。一方、魚・甲殻類の中ではロブスターが主要な輸出品目で、同期間中輸出額合計の9.4%から13.5%を占めた⁴⁹⁾。

第3位の輸出品目は一般機械で、2007年から2010年の間は7.1%から9.4%を占めていた。一般機械にはターボプロペラ・エンジンやその部品が含まれる⁵⁰⁾。2011年以降輸出額も比率も増加し、2014年には1.7億ドル（15.6%）に達した。第4位は野菜で2007年から2014年の期間中輸出額合計の6.2%から12.1%、また、第5位は加工肉・加工魚で3.3%から5.7%を占めた。PEI州の主たる輸出品目の上位5品目のうち4品目が農産物や水産物ならびにその加工品であり、これら4品目の輸出額合計に占める比率は50.8%から63.4%である点がPEI州の輸出の特徴となっている。

輸入品目については、表6が2014年におけるPEI州の上位5品目別輸入額と鉄鋼製品および電気機器の輸入額⁵¹⁾を2007年から2014年にかけて示している。2007年と2008年のPEI州の輸入品目第1位と2009年の第2位は主としてデンマークからの電気機器で、2007年の2,449万ドル（輸入額合計の44.9%）から2008年の8,158万ドル（68.7%）へ増加し、2009年には1,227万ドル（29.7%）へ減少した。肥料は2007年には第2位（27.9%）であったが、2009年から2012年までの期間と2014年には輸入品目第1位になり、2,206万ドルから4,505万ドルの輸入額は全体の53.5%から82.9%を占めた。肥料はロシア、アメリカ、リトアニアから輸入された。2013年には一般機械（1,773万ドル）が第1位の44.5%を占め、肥料は37.5%で第2位となった。一般機械の大部分はスペインから輸入された⁵²⁾。

2014年の肥料の輸入額は3,583万ドルで全体の67.9%を占めた。同年、第2位と第3位の品目はブ

49) 出典、Industry Canada, Trade Data Online (2015年11月18日アクセス)。

50) 同上。

51) 2014年の順位は鉄鋼製品が第8位、電気機器が第10位である（出典、同上）。

52) 出典、Industry Canada, Trade Data Online (2015年10月30日アクセス)。

表6 2007年から2014年までのプリンス・エドワード・アイランド州の上位5品目別輸入額（商品貿易、通関ベース）
（単位：千カナダドル、％）

プリンス・エドワード・アイランド																
	2007		2008		2009		2010		2011		2012		2013		2014	
	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％	輸入額	％
肥料 (31)	15,234	27.9	12,237	10.3	22,061	53.5	34,081	82.9	45,053	72.4	31,113	81.1	14,942	37.5	35,825	67.9
プラスチック・その製品 (39)	234	0.4	239	0.2	120	0.3	48	0.1	286	0.5	143	0.4	331	0.8	4,730	9.0
飲料・蒸留酒 (22)	3,687	6.8	3,183	2.7	3,457	8.4	4,339	10.6	5,218	8.4	4,910	12.8	4,748	11.9	4,730	9.0
一般機械 (84)	2,461	4.5	1,730	1.5	576	1.4	1,483	3.6	1,924	3.1	983	2.6	17,725	44.5	1,655	3.1
無機化学品 (28)	3	0.0	2	—	—	—	—	—	—	—	86	0.2	0	—	1,571	3.0
鉄鋼製品 (73) *	6,105	11.2	17,061	14.4	1,353	3.3	9	0.0	121	0.2	101	0.3	121	0.3	267	0.5
電気機器 (85) *	24,489	44.9	81,584	68.7	12,266	29.7	176	0.4	8,235	13.2	109	0.3	163	0.4	180	0.3
その他	2,324	4.3	2,759	2.2	1,442	3.4	1,000	2.4	1,360	2.2	915	2.3	1,845	4.6	3,804	7.2
輸入額合計	54,537	100.0	118,795	100.0	41,275	100.0	41,108	100.0	62,197	100.0	38,360	100.0	39,875	100.0	52,762	100.0

注) 2014年の順位は鉄鋼製品 (73) が第8位、電気機器 (85) が第10位である。

出典) Industry Canada, Trade Data Online (2015年10月26日アクセス)。

プラスチック・その製品と飲料・蒸留酒で、それぞれ輸入額合計の9.0%であった。PEI州の輸入品の大半は肥料で、年によって電気機器や一般機械が第1位の輸入品目として挙がってくるという他州にはみられない特色を示している。

PEI州の輸出入品目を詳細に検討した結果、同州の貿易の特徴は、主として冷凍フレンチ・フライやロブスターを輸出する一方、ジャガイモ栽培などに必要な肥料を輸入していることが明らかになった。この貿易パターンはPEI州独自のものである。冷凍フレンチ・フライやロブスターは主にアメリカ市場へ輸出されており、アメリカとの貿易が同州の貿易黒字に大きく貢献していることも明らかになった。アメリカ経済の動向や米ドルに対するカナダドルの為替レートの変動は貿易を通してPEI経済に影響を及ぼすことも明白である。

4 まとめ

PEI州の経済動向は、経済成長率でみても失業率でみてもリーマン・ショックの影響が表われていた。さらに、PEI州の輸出額および輸入額は2008年から2009年と2010年にかけて減少し、貿易の面でもリーマン・ショックの影響が読み取れた。

全体的なPEI州の経済の特徴は、経済成長率の変動幅が小さく、失業率が高止まりしていることである。また、同州の経済が農業や水産業およびその一次製品の加工を中心としており、しかも輸出面でアメリカ市場への依存度が高く、2007年から2013年にかけてアメリカとの貿易黒字は州全体の貿易黒字の約70%から90%に相当し、2014年でも約65%に相当することが明らかとなった。さらに、PEI州の製造業や観光産業は、アメリカ経済の景気回復やカナダドル安によって促進されることも明らかである。このように、PEI経済はアメリカ経済の動向に大きく影響を受けやすい。

このような特質を持つ同州の経済は、今後どのような方向に進んでいくのであろうか。直近では特に大規模プロジェクトはないが、30メガワット規模の6,000万ドルの風車の設置など再生可能エ

エネルギーへの投資は州経済にプラスに働くであろう⁵³⁾。また、長期的には伝統的産業を維持しつつ、知識集約的産業により現在の産業構造から多様化を図ることが望まれる。それに伴って、新たな雇用も創出され、経済基盤が強固なものになるであろう。

参考文献

- ARC国別情勢研究会 (2013)、『ARCレポート：経済・貿易・産業報告書、カナダ、2013/14』、ARC国別情勢研究会。
- ARC国別情勢研究会 (2015)、『ARCレポート：経済・貿易・産業報告書、カナダ、2015/16』、ARC国別情勢研究会。
- 榎本悟 (2012)、「カナダの思惑：対米、対日、対中交易関係から見て」、『広島大学マネジメント研究』、第13号、pp. 167-179。
- 栗原武美子 (2011)、『現代カナダ経済研究：州経済の多様性と自動車産業』、東京大学出版会 (第21回カナダ出版賞受賞)。
- 栗原武美子 (2013)、「リーマン・ショック以降のカナダ経済の動向」、『東洋大学経済論集』、第39巻第1号、pp. 117-137。
- 栗原武美子 (2014a)、「リーマン・ショック以降のカナダ4州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第39巻第2号、pp. 117-142。
- 栗原武美子 (2014b)、「リーマン・ショック以降のカナダ平原2州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第40巻第1号、pp. 169-193。
- 栗原武美子 (2015)、「リーマン・ショック以降のカナダのニューファンドランド・アンド・ラブラドル州の経済動向」、『東洋大学経済論集』、第41巻第1号、pp. 137-157。
- ジェトロ (日本貿易振興機構) (2008-2009)、『ジェトロ世界貿易投資白書、各年版』、ジェトロ。
- ジェトロ (日本貿易振興機構) (2010-2015)、『ジェトロ世界貿易投資報告 各年版』、ジェトロ。
- ジェトロ (日本貿易振興機構)・海外調査部 (2010)、「米国発金融危機の経済とビジネスへの影響：各国・地域編」(2010年3月30日改訂版)、pp. 54-65。
- ジェトロ (日本貿易振興機構)・海外調査部 (2013)、「2013年の経済見通し：世界53カ国・地域」、pp. 52-58。
- 杉浦哲郎 (2013)、「多様性が生むしなやかさ、栗原武美子著『現代カナダ経済研究：州経済の多様性と自動車産業』」、『アメリカ太平洋研究』Vol. 13、pp. 174-180。
- ダグラス・ボールドウィン (1990)、『「赤毛のアン」の島：プリンスエドワード島の歴史』木村和夫訳、河出書房新社。
- Atlantic Provinces Economic Council (2014), *Atlantic Canada's Economic Outlook: Moderate Growth Continues in 2015*, Halifax, Nova Scotia: Atlantic Provinces Economic Council.
- Bloskie, Cyndi and Guy Gellatly (2012), "Recent Developments in the Canadian Economy: Fall 2012," *Economic Insights*, No. 019, Statistics Canada, Catalogue no. 11-626-X.
- Department of Finance Canada and James M. Flaherty (2009), *Canada's Economic Action Plan: Budget 2009*, Ottawa: Public Works and Government Services Canada.
- Department of Finance Canada and James M. Flaherty (2013), *Jobs, Growth and Long-term Prosperity: Economic Action Plan 2013*, Ottawa: Public Works and Government Services Canada.

53) 前掲書、Service Canada, p.20。

OECD (2012), *OECD Economic Surveys: Canada 2012*, Paris: OECD Publishing.

OECD (2014), *OECD Economic Surveys: Canada 2014*, Paris: OECD Publishing.

Savoie, Donald J. (2006), *Visiting Grandchildren: Economic Development in the Maritimes*, Toronto: University of Toronto Press.

E-References

三輪裕範・丸山義正 (2014)、「懸念を抱えつつも、潜在成長ペースで拡大を続けるカナダ」、*Economic Monitor*, 伊藤忠経済研究所、http://www.itochu.co.jp/ja/business/economic_monitor/files/20140620_2014-084_U_Canada.pdf (2014年12月14日アクセス)。

Atlantic Provinces Economic Council (2009), “Economic Update: Early Impact of the Recession in Atlantic Canada,” {DCC84FB5-0CD3-4760-942C-8EE92010C136} .pdf, (2014年12月7日アクセス)。

Bank of Montreal (2011-2014), *BMO Blue Book*, <http://www.bmonesbittburns.com/economics/reports/20110601/bb201106.pdf> (2011 ed.) (2014年9月1日アクセス)。

Beale, Elizabeth (2011), “How Atlantic Canada’s Economy is Adapting to New Global Realities,” Atlantic Provinces Economic Council, {2E288FBF-ED85-4847-82EF-11CEE8E310C} .pdf, (2014年12月7日アクセス)。

Bendiner, Jonathan (2013), “Provincial Economic Forecast,” TD Economics, *ProvincialForecast_July2013.pdf* (TD Bank Groupより入手)。

Bulmer, John (2014), “Provincial Trends,” June 27, 2014, http://www.gbm.scotiabank.com/English/bns_econ/ptrends_nl.pdf (2014年12月25日アクセス)。

Burleton, Derek and Jacques Marcil (2012), “Provincial Economic Forecast,” TD Economics, *ProvincialForecast_July2012.pdf* (TD Bank Groupより入手)。

Burleton, Derek and Jonathan Bendiner (2014), “Provincial Economic Forecast,” TD Economics, http://www.td.com/document/PDF/economics/qef/ProvincialEconomicForecast_July2014.pdf (2014年8月21日アクセス)。

Cavendish Farms, “History,” <http://www.cavendishfarms.com/foodservice-aboutus-history.aspx> (2015年11月22日アクセス)。

Ferraro, Phil (2008), “Prince Edward Island at a Crossroads: The Continuing Role of Agriculture in Revitalizing the Island’s Rural Economy,” Charlottetown, Prince Edward Island: Institute for Bioregional Studies, <http://www.ibspei.ca/sustainability.pdf> (2015年9月14日アクセス)。

Government of Prince Edward Island, Department of Agriculture and Fisheries, “Agriculture on Prince Edward Island,” <http://www.gov.pe.ca/agriculture/AgonPEI> (2015年11月18日アクセス)。

Government of Prince Edward Island, Department of Finance (2011-2014), *Budget Paper, Background Notes of the Economy, 2011, 2012, 2013-2014, 2014-2015*, http://www.gov.pe.ca/photos/original/fema_budback14.pdf (2014-2015 ed.) (2015年7月12日アクセス)。

Government of Prince Edward Island, Department of Finance (2015), *Budget Highlights 2015*, <http://www.gov.pe.ca/photos/original/budgethigh2015.pdf> (2015年7月12日アクセス)。

Government of Prince Edward Island, Department of Finance (2015), *Estimates of Revenue and Expenditures 2015-2016*, <http://www.gov.pe.ca/photos/original/estbudget2015.pdf> (2015年6月8日アクセス)。

- Government of Prince Edward Island, Department of Finance (2015), *Prince Edward Island 41st Annual Statistical Review 2014*, <http://www.gov.pe.ca/photos/original/2014statsreview.pdf> (2015年8月11日アクセス)。
- Government of Prince Edward Island, Department of Finance, Energy and Municipal Affairs (2012-2014), *38th- 40th Annual Statistical Review 2011-2013*, http://www.gov.pe.ca/photos/original/pt_annualreview.pdf (40th ed.) (2015年8月11日アクセス)。
- Government of Prince Edward Island, Department of Finance and Municipal Affairs (2010-2011), *36th-37th Annual Statistical Review 2009-2010*, https://www.gov.pe.ca/photos/original/fma_asr2010.pdf (37th ed.) (2015年8月11日アクセス)。
- Government of Prince Edward Island, Department of the Provincial Treasury (2008-2009), *34th-35th Annual Statistical Review 2007-2008*, http://www.gov.pe.ca/photos/original/2008_ASR.pdf (35th ed.) (2015年8月11日アクセス)。
- Government of Prince Edward Island, Department of Tourism and Culture (2008-2015), “*Tourism Indicators, 2007-2014*,” http://www.gov.pe.ca/photos/original/tourism_yearend.pdf (2014 ed.) (2015年9月13日アクセス)。
- Government of Prince Edward Island, Department of Tourism and Culture (2014), *Annual Report 2012-2013*, http://www.gov.pe.ca/photos/original/tour_annual_13.pdf (2015年8月11日アクセス)。
- Jupia Consultants (2014), *The Prince Edward Island Bioscience Cluster: Economic Impact Analysis*, http://www.pebioalliance.com/media/publications_reports/publications_reports23.pdf (2015年9月14日アクセス)。
- Jupia Consultants (2015), *Prince Edward Island’s ICT Industry: Economic Impact Review*, http://itap.ca/wp-content/uploads/2015/03/ICTeconomicimpact_final.pdf (2015年9月14日アクセス)。
- McCain, “About us,” <http://www.mccain.com/about-us> (2015年11月18日アクセス)。
- “McCain Foods Closing Borden-Carleton French Fry Plant,” <http://www.cbc.ca/news/canada/prince-edward-island/mccain-foods-closing-borden-carleton-french-fry-plant-1.2730051> (2015年11月22日アクセス)。
- “McCain to Close PEI French Fry Plant, Affecting 121 Jobs,” <http://www.theglobeandmail.com/report-on-business/mccain-to-close-pei-french-fry-plant-affecting-121-jobs/article19949187/> (2015年11月22日アクセス)。
- McInners Cooper (2012), *Economic Impact of Federal Workforce Reductions in Prince Edward Island*, <http://city.charlottetown.pe.ca/pdfs/June12PEIFederalWorkforceReport.pdf> (2015年9月14日アクセス)。
- PotatoPro, “Cavendish Farms Says It Faces the Same Challenges as McCain,” <http://www.potatopro.com/news/2014/cavendish-farms-says-it-faces-same-challenges-mccain-foods> (2015年11月22日アクセス)。
- Prince Edward Island Potato Board, “PEI Potato Industry, Processing,” <http://www.peipotato.org/industry/processing> (2015年11月22日アクセス)。
- Prince Edward Island Potato Board, “Potato Industry,” <http://www.peipotato.org/potato-industry> (2015年11月18日アクセス)。
- Royal Bank of Canada (2009-2014), *Provincial Outlook* (Quarterly), <http://www.rbc.com/economics/economic-reports/provincial-economic-forecasts.html> (2014年8月12日アクセス)。
- Service Canada (2014), *Sectoral Outlook 2013-2015, Prince Edward Island*, http://www.esdc.gc.ca/eng/jobs/lmi/publications/sectoral-outlooks/2013-15/pei_winter2014.pdf (2015年9月14日アクセス)。
- Statistics Canada, “Service Bulletin, Canadian Potato Production, 2012” <http://www.statcan.gc.ca/pub/22-008-x/22-008-x2012003-eng.pdf> (2015年11月18日アクセス)。
- Statistics Canada, *The Daily*.

“Strong Economic Growth Projected for P.E.I.: P.E.I. Economy Tracking Slightly Ahead of National Average” (2015), CBC News, May 29, 2015, <http://www.cbc.ca/news/canada/prince-edward-island/strong-economic-growth-projected-for-pe-i-1.3092439> (2015年9月14日アクセス)。

データベース

ジェトロ、国・地域別情報 (J-FILE)、各国・地域データ比較。

ジェトロ、『通商弘報』。

日経テレコン21。

Industry Canada, Trade Data Online.

Statistics Canada, CANSIM Tables.

Recent Trends in the Economy of Prince Edward Island in Canada
after the Lehman Shock

Tamiko Kurihara

Abstract

This paper aims to clarify characteristics of the Canadian economy at the provincial level after the Lehman Shock of 2008, especially in relation to the American economy. Since the seven provinces in Canada were scrutinized in my previous papers, the economy of Prince Edward Island (hereafter P.E.I.), which is the smallest province as per its Gross Domestic Product (GDP), is scrutinized here.

First, the economic performance of the province is examined, based on the growth rates of real GDP and the unemployment rates from 2007 to 2013/2014. An examination of the economy's GDP by industry is included. Second, characteristics of merchandise trade of the province are illustrated, particularly focusing on trading countries and trading items. Its trade balances are also scrutinized. Finally, problems faced by the province are discussed.

According to the growth rates of real GDP from 2007 to 2013, the economy of P.E.I. had been growing at a slow but steady pace. The unemployment rates of the province, from 10.2% to 11.9% during the period between 2007 and 2014, had been the second highest among the ten Canadian provinces. Both growth rates of real GDP and unemployment rates revealed the effect of the Lehman shock on the P.E.I. economy.

In addition, P.E.I.'s exports and imports decreased from 2008 to 2010, due to the reflection of the Lehman shock. The largest exporting country for the province was the United States (U.S.), although the share of exports going to the U.S. gradually declined from 81.1% in 2008 to 64.1% in 2014. The largest importing country for the province varied, and, depending on the year, included Denmark, the U.S. and Russia. P.E.I. had favorable trade balances from 2007 to 2014, approximately over 70% of which stemmed from the trade balances with the U.S. from 2007 to 2013. Frozen food products such as frozen French fries and seafood products were major export items, accounting for approximately 50% of the province's exports. Fertilizers had been the largest importing items from 2009 to 2014.

The agriculture, fishing and tourism-related industries continue to be prominent for the P.E.I. economy. The possibility of a stronger U.S. recovery and the weaker Canadian dollar should have positive impact on the manufacturing and tourism industries. However, knowledge-based sectors, especially aerospace and bioscience, show promise in strengthening employment opportunities of the provincial economy.